

中区の子どもたち全員に冊子プレゼント



「21世紀の主役たちへ ～中区この町が大好き～」 「2030 中区わくわく未来地図」冊子発行・配布

新型コロナウイルス感染拡大により、明るい話題が少ない中、中区の子どもたちに「中区の未来に夢や希望を持ってもらう」ため、約10年後となる近未来の中区を描いた冊子「2030 中区わくわく未来地図」を編集作成するとともに、10年前に当会が作成し小学校を通じて中区の全児童に配布した冊子「21世紀の主役たちへ ～中区この町が大好き～」を再編集して、2冊併せて中区内の児童・生徒・教職員の皆様に各学校を通じて配布した。

納入日／中学校 令和4年3月2日(水) 各 970冊
小学校 令和4年3月4日(金) 各2,430冊 合計6,800冊

寄贈式

日 時／令和4年3月9日(水)

11:00～12:00

会 場／中区役所5F 第一会議室

出席者／（敬称略）

公益社団法人名古屋中法人会

会 長 杉浦 正樹

経営研究会代表幹事

佐々木浩一

副代表幹事 山田 尚武

副代表幹事 平木 聖三

専 務 理 事 鶴岡 一美

名古屋市中税務署

広報広聴官 奥村 友紀

法人課税第一部門統括官

磯貝 泰孝

名古屋市中区 区長 柵木 由美

小中学校校長会会長 中越 敏文

伊勢山中学校 校長 加藤 寿樹



3月9日 寄贈式 中区役所5F 第一会議室 中区長柵木由美氏（中央）



編集会議 事務局会議室



オリエンタルビル(株)
平松 潤一郎氏



(株)御園座
宮崎 敏明氏



大須商店街連盟
堀田 聖司氏



3月9日 プレス取材 事務局会議室



老松学区
高橋 公比古氏



名城・御園学区
加藤 あつこ氏



栄学区
服部 浩明氏

中区の小中学校の子どもたちへ みなさんの夢や挑戦で中区の未来は大きく変わります



経営研究会代表幹事の佐々木浩一氏（中央）と編集委員の皆さん

大きな建物を建てる写真や絵を見て、みなさんはワクワクするでしょうか？
10年後の未来はどのようなになっているでしょうか？ 想像できますか？
当たり前^{ちやうぜん}にこだわらずに、たくさんの夢をもって、みなさんも挑戦してみてください。

栄にある MIRAI TOWER（テレビ塔）は、10年前までテレビに電波を届ける役割でした。時代の流れとともに現在は、ホテルや、すてきなレストラン街として生まれ変わっています。

10年後も久屋大通公園や新しい建物と一緒に、緑あふれる名古屋のシンボルでしょう。

毎日は楽しいことであふれています。どんなことも経験^{けいけん}してみてください。

2030 中区わくわく未来地図 あとがき抜粋



3月10日 中日新聞



SRT (Smart Roadway Transit) 先進モビリティ都市・名古屋
提供／未来社会創造機構 モビリティ社会研究所



錦三丁目25番街区
提供／三菱地所(株) 中部支店



オリエンタルビル
提供／オリエンタルビル(株)



三大祭と国立博物館サムライミュージアム
提供／三の丸ルネサンス期成会作成



「水の都」堀川・新堀川
提供／クリーン堀川事務局



会所
提供／錦二丁目エリアマネジメント(株)



「身の丈商売」「確認は二度」

株式会社松屋コーヒー本店 会長 松下 和義氏

取材日時／令和4年6月15日(水) 10時30分～11時30分
聞き手／堀江 陽平、今井 康幸、梶浦 詩乃、鶴岡 一美
取材場所／松屋コーヒー本店

■株式会社松屋コーヒー本店

創業 明治42年(1909)
本社 名古屋市中区大須3-30-59
営業本部 名古屋市中区千代田1-11-31
代表者 代表取締役社長 松下 幸司
事業 コーヒー・紅茶・ココア・ジュース・
各種缶詰・冷凍食品・喫茶・レスト
ラン関連原材料の卸売販売、並びに
コーヒー器具・洋食器・陶器・ガラ
ス製品の販売
酒類(果実酒及び雑酒) 直営飲食店



芝居小屋を自由に出入り

——明治に創業されて113年を迎えられました。創業はこの地ですか。

いまは再開発の大須301ビルに本店がありますので、少し移動しています。

——お店の戦前・戦後の頃の大須の写真などはありますか？

父は写真が好きで風呂場を現像場所にしていたほどでしたが、戦争で焼けてしまいました。人に貰った昭和11、12年頃の写真はあります。

——時代の移り変わりをどのように感じておられますか。

私は大須で生まれ育ちました。小学生のころ、大須は有数の歓楽地でした。松屋のせがれということで、芝居小屋には無料で出入りできて楽しかったです。

戦災で家は焼失、家が焼けているのを見ながら逃げました。中署の西側の父が勤めていた鉄の会社の事務所に一泊させてもらい、名城裏にある母の在所まで歩いていった覚えがあります。

明治42年、祖父は小学校の教師だったため副業は認められませんので、祖母が内職として雑穀・砂糖・豆の商売を始めました。

大正初期になり、祖父は菓酒の免許をもっていたので先生を辞め、何かいい商売はないか東京に探しに行き、コーヒー屋をやると決めたようです。

そのころ、この辺りに喫茶店はなくて、昔の喫茶店は少し上流階級の集まり場で一般の人は入りにくかったので、



昭和10年頃の記念写真（お姉さま2人と従業員で撮ったもの）を手に語る松下氏。



大須301ビル

コーヒーの消費量は少なかったのですが、関東大震災以後、一般の人も喫茶店に行くようになって急にコーヒーが広がっていきました。

戦前、松屋コーヒー宣伝部という喫茶店をやっていたのですが、私にその記憶はありません。戦後は食器とコーヒー豆を取り扱っていました。戦後は店さえあれば何でも売れて商売できて、いい時代でした。戦前はビリヤード場が多くあり、コーヒーをサービスに出していて、お客様がいっぱいいました。

一杯で満足できる濃いコーヒー

——名古屋は喫茶店が多いです。

一番多いのは高知、あとは広島、名古屋です。喫茶店で使う一人の単価が一番高いのは岐阜県で、愛知県は二番目です。

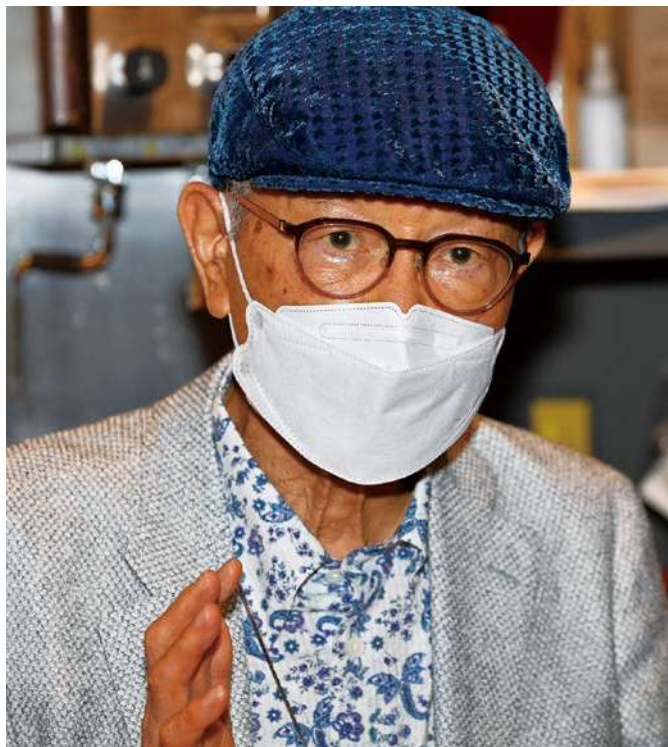
——純喫茶とよく聞きます。

保健所の営業許可が、純喫茶は食べるものは出せません。当時の喫茶店の8～9割がコーヒーのみを提供していて、それが純喫茶です。カレーやスパゲティを出す場合は飲食店営業になります。

戦後の食べる物も十分でない時代、一杯のコーヒーが飲みたかった。だから濃いコーヒーが望まれました。一杯で満足できるコーヒー。それがコンパルさんのコーヒーです。他店との差別化で、ずっと続けておられます。

愛知の喫茶店を、我々が育ててきたと思っています。新規に开店するお客様にサービスでノウハウを教え、一式揃えて納品するのです。いまのコーヒー店の原点は大正初期のカフェ・パウリスタ（※）です。一般に飲むコーヒーとスペシャルティーなコーヒーは違います。コーヒーは極めると奥が深いです。





皆様に出していただいたコーヒー、キング・オブ・パカマラ（100g 2,900円）。グアテマラのコーヒー。濃厚で深い味わいでした。



奥様と記念写真。平成20年頃、瀬古写真館（大須1丁目）にて。

大須301ビルで賑わい

——本店のある大須301ビルについてお聞かせください。

大須商店街は、昔は万松寺の境内でしたが、大正時代に地域の住民に解放され門前町として始まりました。

大須301ビルは2003年（平成15年）にオープン、地上12階・地下1階建てで、1階から3階部分に商業施設が入っています。

平成2年頃から大須の再開発の話が始まりました。始めは30番地、赤門通りから万松寺、角のりそな銀行までの全体で始まりました。全体を5分割して、まず3地区に万松寺ビルができ、そして1・2地区が301ビルとしてスタートしました。13軒がビルの権利者です。

——全国でも活気あるこの再開発ビルがオープンできたのは松下さんの人柄です。みんなが好き勝手に言っているのを、よくまとめられました。

商店街の人たちの努力のお陰と、コンサルタントがよく働いてくれました。

このビルがあることで大須が賑わって良かったという話を聞くと嬉しいです。

いろいろ紆余曲折あって大変でした。この建物は、地上権は売って、底地は残っています。2064年でゼロになるので解体して返します。解体準備金を集めていますが昔の見積り額ですし、ビルを解体するのか、そのまま使うのか、まだ不確定な部分が多いです。

メリットは自分でつかむもの

——名古屋中法人会の創成期から今日まで貢献していただき、また青年部会の立ち上げもお父様にお骨折りいただきました。法人会活動で忘れられないエピソードをお聞かせください。



昭和32年頃の写真。松屋コーヒーの本店店舗（建物は終戦直後、昭和21年頃建築されたもの）

法人会を立ち上げて、最初の会員を募集するのに、(株)大陽商会さんと一緒に活動していたことを憶えています。
——公益法人になる1年前に松下さんに無理やり誘われて(笑)、支部長になりました。その頃は人と人との繋がりが強かったですね。

いま法人会の会員は減っていて大変でしょうが、大須支部は結束が固くて素晴らしいです。バス旅行など企画して楽しく親睦を深めてきました。

——バス旅行はいつも満員で楽しかったです。いつもコーヒーをさし入れしてくださって感謝しています。

青年部会の際は添乗員でお手伝いしました。

——会員が減ってきています。

会員勧奨するとき「メリットは何？」と聞かれますが、私は、「人にもらうものではなく、自分でとるもの。会費を払っているだけでは何もならない。自分で参加して、メリットは自分でつかむもの」と思っています。

金銭ではないプラスがあるんです。参加しなかったら何もわからないです。

——支部長を20年、親会の常任理事も務めてくれました。法人会活動で印象深いことはありますか。

大須支部は楽しかったです。友だちもいっぱいできました。

一番良かったのは、損得ではなく、税務署の敷居が低くなったことです。

支部会事業は講習会とバス旅行が必須でした。神谷元専務理事にお願いして、いい講師を何人も呼んでもらいました。特に印象に残っている講師は、かずきれいこさんです。お化粧で顔の傷を上手に隠す講習でしたが、女性の参加者でいっぱいでした。

旅行はなかなか予算がなくて3支部合同になりました。大須支部でよく行ったのは京都です。穴場があって何度行っても観光できました。



——大切にされている言葉をお聞かせください

親に言われたのは「目の届く範囲の身の丈商売」です。大きくしない。無理しない。毎日のことはその日で終わる。仕事は翌日に延ばさない。難しいですが、そういうことをよく言われました。昔は、帳面は手書きで金銭出納帳から転記するのですが、父は毎日3度チェックしていました。「絶対に翌日に延ばすな。間違えていたらわかるまで調べろ」と言われました。なかなか3度のチェックは難しいです。いまはパソコンでの作業になりましたが、その精神は守っています。

※カフェ・パウリスタ (CAFE PAULISTA) / 1911年(明治44年)、東京・銀座に開業。各地に店舗を広げ親しまれたが、1923年(大正12年)の関東大震災の被災後に喫茶店経営から撤退。1970年に復活した銀座店は、昔のカップやスプーンを復元するなどして「日本初のカフェ」と称している。



松屋コーヒー本店

「住吉の語り部になりたい」―②⑦

若宮八幡社と若宮まつり

料亭つたも会長・深田 正雄



江戸後期の若宮周辺



令和4年5月若宮まつり再興

令和4年5月15～16日コロナ禍で中止されていた本格的な若宮祭が3年ぶりに門前町の担当で晴天に恵まれ再開されました。16日本祭では山車や神輿が本町通を那古野神社まで曳行、総代会会長・岡谷篤一氏の岡谷鋼機(株)前にてからくり披露「コロナ退散」人形囃子も話題となりました。

350年余の歴史を誇るイベントの再興で久しぶりに栄ミナミの賑わいが戻りました。前日曜日の宵祭では午後4時よりキッチンカー大集合、恒例の名物料亭蔦茂のわらび餅も人気で多くの子供たちも加わり境内は1000人近い人出で大賑わい。十数年ぶりに門前町への山車曳行もあり、大須地区に歴史と文化の香りがイッパイとなりました。

正雄君の小学生時代、若宮祭りは最大の興奮行事！2日間とも学校には行かず（特別休日？）朝から町内のお休み処に集合「子ども獅子」をかぶり、大声で「元気を出してワッショイ!!」と叫びながら近所を乞食獅子で小遣い稼ぎ。夕刻には集めた小銭を握りしめ本町通りのバザー「買いにオイデー」、暗くなると境内の町内テントや夜店で悪童たちと大騒ぎ、イタズラの最高潮は提灯破りの喧嘩騒動!! 懐かしい思い出いっぱいの無礼講でした。

コロナ疫病で中止が続いた栄ミナミ音楽祭、南大津通り歩行者天国、「どまつり」、栄ミナミ盆踊り@GOGO、コスプレサミット、住吉祭りなどの楽しいイベントの早期・再開が期待されます。

若宮の歴史

若宮八幡社の祭神は仁徳天皇、応神天皇、武内宿禰命で、たけのうちのすくねのみこと大宝年間（701～704）に那古野庄今市場（現名古屋城の三之丸付近）に創建と伝えられます。亀尾天王（三之丸天王社＝現那古野神社）とならんで名古屋の総鎮守として鎮座していましたが、慶長15年（1610）名古屋城築城の際に、神占によって現在地に遷座しました。江戸時代、社領は現在の3倍ほど、200石の扶持も与えられ歌舞伎小屋・見世物屋台が立ち並び、芸人も多く町衆もお武家さんも分け隔てなく楽しめるチョットした遊興地でもあったようです。

平成22年名古屋開府四百年と共に遷座400年祭は住吉町がまつり実行委員会を担当し、祭礼では境内にて久田勘鷗能楽師による薪能奉納、10月の名古屋まつりでは市内の山車22両が早朝に若宮に集合本町通りを名古屋城まで渡御など盛大に実施されました。

「東照宮祭」、「三之丸天王祭」とともに、名古屋三大祭りに数えられるのが「若宮祭」。若宮祭は寛文4年（1664）に始まり、寛文11年（1671）からは傘鉦が出て本格的な祭礼



岡谷銅機前のからくり披露 今年は「コロナ退散」祈願



那古野神社へ神輿渡行：毎年東海高校同級生が担いでくれます。
73歳でも元気な仲間たち！



住吉町葛茂前にてからくり・力持ち披露



平成22年新能奉納（本殿前境内）

となりました。若宮祭に最初に山車が登場したのは、その3年後の延宝2年（1674）の事で、有名な末広町の黒船車など5輦の山車でした。

その2年後には、住吉町の山車と現存する大久保見町の福祿寿車が参加し、7輦の山車が揃うことになります。

昭和20年（1945）の空襲で本殿とともに氏子町内の大半が焼失しますが、昭和24年（1949）に社殿は復興されています。

明治以後に氏子区域の変更が行われ、広小路以北を那古野神社、それより南から大須界限までが若宮八幡社の氏子地域となっています。

八幡社境内に大久保見町と住吉町の山車蔵があったため焼け残った福祿寿車と河車も、昭和22年（1947）に出来町（名古屋市東区）に売却されついに若宮から山車が消え

る事態となってしまいました

しかし、その2年後の昭和24年（1949）に若宮八幡社が復興されるとともに、福祿寿車は再び当地に返車され、若宮祭の山車はついに1輦のみとなってしまいました。（尾張の山車祭り・若宮祭のHPより一部引用）

返還された福祿寿車は若宮八幡社の所有となり、祭礼時に氏子8町内（末広町・裏門前町・南大津通り・矢場町・住吉町・鉄砲町・池田瓦町・門前町）が順に当番町をつとめることで運営されます。

5月15日の試楽祭には、若宮八幡社境内で囃子と山車からくりの奉納が行われ、夜は福祿寿車に提灯を飾ります。

翌16日の例祭日は、神輿とともに那古野神社（名古屋市中区丸の内）まで渡御が行われます。